学習プログラム　事例　3

（主に高齢者を対象とした，子育てボランティア養成のための連続講座の中に，人権教育を取り入れる事例）

高齢者を対象とした講座

1　事業計画

(1)　事業名

まちづくりは地域の子育てから　～おじいちゃん，おばあちゃん，出番ですよ～

(2)　事業の目的

子どもたちをはじめ，住民が，生き生きと生活できる社会をつくるため，主として高齢者が，子どもたちを取り巻く現状・課題について理解を深めるとともに，子どもの体験活動・奉仕活動支援のためのボランティアとして，その知識・技能を生かす機会を提供する。

さらに，この事業を通じて，地域住民の，暮らしやすいまちづくりへの関心を高める。

(3)　実施主体　　○○町教育委員会

(4)　参加対象・定員　　地域の高齢者・３０名

(5)　学習期間・時間（回数）　４日間　計１２時間

(6)　学習場所　　公共施設等

(7)　学習目標

①　子どもたちを取り巻く現状・課題について理解を深める。

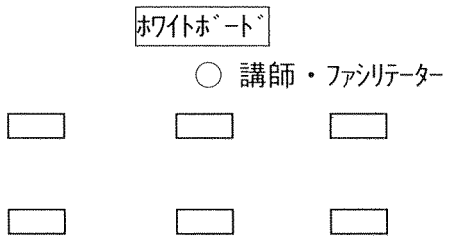
②　より効果的な子育て支援のあり方について具体的な方法等を企画する。

(8)　プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備　考
1	わが町の子どもたち《3時間》	(1)　子どもの人権ワークショップ ・　ワークショップを通して子どもの人権について考える。 (2)　子どもの置かれた現状・課題 ・　子どもの人権に係る現状等について，講師の話を聞く。	ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ 行政職員	ﾌﾞﾚｰﾝｽﾄｰﾐﾝｸﾞ・KJ法・ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議 講話
2	昔の遊び《4時間》	(1)　自然を利用した遊び (2)　手作りのおもちゃ (3)　意見交換	社会教育主事	高齢者・子ども交流事業
3	子育てからまちづくりへ《2時間》	地域の教育力について考えるフォーラム	大学教授 実践者	公開講座
4	子育てとまちづくり《3時間》	子育て支援プログラム作りワークショップ	社会教育主事	

2　学習展開計画（第１回以外は省略）

第１回	学習テーマ：わが町の子どもたち
学習目標	ワークショップや講話により，子どもの人権について考え，地域の大人の１人として子どもたちのためにできることについて考える。

準　備　物	会 場 図　（各テーブル５名）
・　名札用紙　１人１枚 ・　名札ケース　１人１個 ・　マーカー　各グループ１セット ・　伴奏 CD ・　模造紙　各グループ２枚 ・　カード　１人２０枚程度 ・　講話資料　１人１部 ・　感想記入用紙　１人１枚	

流　れ	時　間	学　習　活　動
導　入	１０分	プログラムの趣旨と活動を行う上での留意点の説明
展　開	５０分	アイスブレーキングとグループ作り 活動（アクティビティ）① グループディスカッション 「昔の子ども・今の子ども」
		休憩
	５０分 ４０分	講話 「今，子どもたちは」 活動（アクティビティ）② グループディスカッション 「どの子もみんな，わが町の子」
ふりかえり	３０分	グループ発表 まとめ

わが町の子どもたち

ねらい

子どもたちを取り巻く現状・課題について理解を深め，子どもたちの人権を守るために地域の大人ができることを考えます。

1	研修の趣旨，活動の留意点の説明	
2	アイスブレーキング	童謡・名札つくり
3	活動（アクティビティ）	① 昔の子ども・今の子ども
4	講話	「今，子どもたちは」
5	活動（アクティビティ）	② どの子もみんな，わが町の子
6	グループ発表	一日の活動を振り返って

1 はじめに　参加型学習，ここに気を付けましょう

(1) 今日の研修会の趣旨説明

(2) 参加型学習で，参加者が留意することを説明

① 参加型では，参加者全員が「参加」することが大切。参加者が主体です。

② 人によって様々な意見があります。どんな意見も否定されません。尊重されます。

③ 学習の中で出された意見などは，この場だけのものとし，外へ持ち出してはいけません。参加者全員に守秘義務があります。

2　アイスブレーキング　名札づくり

活動のねらい

全員で懐かしい童謡を歌った後で，自分の名札をつくって自己紹介しながらコミュニケーションを深めます。

準備物

名札用紙	1人1枚
名札ケース	1人1個
マーカー	1人1本

〔名札用紙〕

＿＿＿＿が好きだった

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

活動の進め方

1　雰囲気を和らげるため，全員で童謡を歌います。

2　各自で，名札をつくります。名札には，子どもの頃好きだった遊びを必ず書いてもらいます。

3　名札ができあがったら，音楽に合わせて会場内を自由に動き，音楽が止まったところで，近くにいる人を見つけて，お互いに自己紹介します。これを繰り返して，３分間続けます。

4　最後に，好きな遊びの種類が違う人を捜して，５人でグループを作ってもらいます。人数の合わないところは，ファシリテーターが調整しましょう。

5　５人で席に座り，あらためてグループの中で自己紹介。自分の好きだった遊びの思い出，また，この活動で感じたことなどを話し合ってもらいます。

みんなが心を１つにする，子どもの頃を思い出してもらうというねらいもあります。

グループの作り方に特に決まりはありませんので，やりやすい方法でグループ作りをします。

昔話に花を咲かせるというような雰囲気をつくりましょう。

3　活動（アクティビティ）① 昔の子ども・今の子ども

活動のねらい

参加者の子どもの頃と，今の子どもたちの状況を比較しながら，社会の変化や，子どもをめぐる課題などについて理解を深めます。

準備物

模造紙　各グループ１枚
カード　１人20枚程度
マーカー　各グループ1セット

活動の進め方

1　子どもの頃を思い出して，楽しかったことやうれしかったこと，また，悲しかったことなど，思いつくことをカードに記入していきます。（ﾌﾞﾚｰﾝｽﾄｰﾐﾝｸﾞ）

あまり深く考えずに，ここでは思い浮かぶことをできるだけ多く集めます。

2　グループの中で，各自が書いたカードを模造紙に貼ります。この時，カードをグループ分けして見出しを付ける，グループ毎の関連がわかるようにするなど，話し合いながら，「子どもの頃」がどのような時代だったかをわかりやすくまとめていきます。（KJ 法）

まずグループ分けをしてみると良いでしょう。関連については，そのグループ間の関連（並列，上下など）を考えます。

〔模造紙〕

－子どもの頃－
今の子ども

3　模造紙を見ながら，グループで，自分たちの子どもの頃と比較して，今の子どもたちの良いところ，足りないところ等について話し合い，模造紙に書き込みます。（足りないところばかりにならないよう，留意します。）

4　グループで，話し合ったことを中心に全体へ発表します。

必ずしもまとまったものにならなくてよいので，できるだけ様々な意見が出るようにします。

※　参加者によっては，書くことへの抵抗があることも考えられます。そういった場合はグループに記録係として運営者を配置するなど，配慮をします。

4　講話　　今，子どもたちは

活動のねらい

資料などをもとに，現在の子どもを取り巻く状況や課題，地域社会ができることなどについて，理解を深める。

準備物

講話資料　１人１部

※　講話内容については，事業全体のねらいや，グループ活動の内容を踏まえたものにする必要があります。よって，講師との事前の打ち合わせは，十分に行う必要があります。

特に，子どもの自尊感情や人権感覚を育成する上で，遊びなどを通しての自然体験や社会体験が大切であることや，地域社会の子育て支援が求められていること，さらに，子育て支援とまちづくりとの関連などに触れる内容になれば，次の活動につなげることができます。

5　活動（アクティビティ）② どの子もみんな，わが町の子

活動のねらい

講話の内容や，資料などから，子どもの人権に係る現状についての理解を深めるとともに，地域の大人としてのかかわり方を考える。

準備物

模造紙　各グループ１枚
カード　１人 20 枚
子どもの安全・非行に関する資料　1人1部

活動の進め方

1　グループで，県（または○○町）での子どもの安全・少年非行に係る資料や，先ほどの講話の内容の中で，子どもの人権に関わって，気になることをカードに書き出します。（ﾌﾞﾚｰﾝｽﾄｰﾐﾝｸﾞ）

2　模造紙の「気になること」の部分に，カードを貼っていきます。同じようなものがあれば，グループにします。

3　カードの数が多かったものから，その原因になっていると考えられる事柄を話し合って，「なぜ」の部分に記入していきます。

4　記入した「原因」を見ながら，「私たちがすぐにできること」と「時間をかけたらできること」について話し合い，それぞれ模造紙に書き込みます。

5　出された意見について，グループごとに発表します。

思いつくものをできるだけ多く出すようにします。

〔模造紙〕

(気になること)	(なぜ？)	(すぐにできること)
		(時間をかけてできること)

大人のあり方や，社会的な問題など，幅広く考えるようにし，子ども自身の問題に偏らないように留意します。

細かいことでもいいので，多く出るようにします。

必ずしもまとまったものにならなくてよいので，できるだけ様々な意見が出るようにします。

※　参加者によっては，書くことへの抵抗があることも考えられます。そういった場合はグループに記録係として運営者を配置するなど，配慮をします。

6　まとめ　グループ発表

活動のねらい

今日の研修会での気づき，感想などを話し合い，発表することで，子どもの現状について理解を深め，交流活動への意欲を高める。

準備物

感想の記入用紙　1人1枚

活動の進め方

1　各自で，研修会全体を通して気が付いたこと，疑問，感想など，自由に記入します。

2　グループ内で，1人ずつ記入した内容を話し，意見交換します。ただし，意見をまとめる必要はありません。

3　代表者がグループで出された意見等を全体へ発表します。

4　ファシリテーターは，講話や参加者の意見をもとにまとめをするとともに，子どもたちへの地域の支援の必要性を説明します。

必ず，全員が思いを言えるようにします。また，できれば，お互いに質問したり，意見を求めるなど，意見交換をするようにします。

代表者以外に，発表者を決めてもかまいません。また，発表内容は，意見を集約しなくてもよいなど発表しやすいように工夫しましょう。

3　事業評価表

(1) 事業評価の視点	地域における子どもに係る課題について理解するとともに，まちづくりの一環としての子育てボランティア活動に参加する意欲を持つことができたか。	
(2) 評価方法	目標に基づく評価	
(3) 評価のデータを収集する対象者／技法	対象者：受講者，ファシリテーター，主催者 技　法：作品評価法，観察法，インタビュー法，質問紙法(※)	
(4) 評価時期	活動実施時，事業の最後	
(5) 評価の対象領域	学習成果に関するもの	条件整備に関するもの
(6) 評価項目・基準	目標に基づく評価　（作品評価法，観察法，ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ法） ・　○○町における子どもに係る課題について考えるとともに，その課題に対して積極的に関わろうとする意欲を高めることができたか。 ・　子育てボランティアの効果的な実施方法を考えることができたか。	事例研究による評価（質問紙法） ・　学習内容に興味がもてたか。 ・　ファシリテーターの説明が理解できたか。 ・　グループの人数，席の配置は適当であったか。 ・　学習時間は適切であったか。
(7) 留意点・備考	○　個人及びグループでの発表等，活動の実施時にファシリテーター，運営者が評価する。	○　事業の最後に，学習者にアンケートを実施し，評価する。

（※）評価のデータを収集する技法

作品評価法……　学習者が学習の成果として作成した作品（文章等）を評価の手がかりにする。

観察法……　学習活動の場面などで学習者が習得した知識や技能，態度を観察する。

ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ法……　個人又は集団で，面接等により対象者（学習者，企画者，指導者等）から聞き取りを行う。

質問紙法……　学習者の感想や意見，行動や事実について，質問紙による調査を行う。（アンケートなど）

参考文献一覧

国立教育会館社会教育研修所『社会教育指導者の手引　人権に関する学習のすすめ方』ぎょうせい，平成 9 年

国立教育会館社会教育研修所『社会教育指導者の手引　国際化に関する学習のすすめ方』ぎょうせい，平成 11 年

国立教育会館社会教育研修所『社会教育指導者の手引　高齢社会と学習』ぎょうせい，平成 11 年

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『学習プログラム立案の技術』平成 13 年

（財）人権教育啓発推進センター『ワークショップ　「気づき」から「行動」へ』1997(平成 9)年

（財）人権教育啓発推進センター『ワークショップは技より心』2000(平成 12)年

栃木県教育委員会事務局生涯学習課『人権学習プログラム集』平成 14 年

白井俊一『勇気が出てくる人権学習　①・②・③』解放出版社，1998･2000･2002 年

白井俊一『人権相談ワークショップ　―まわりと私のつながりを求めて―』解放出版社，2003 年

広島県『広島県人権教育・啓発指針』平成 14 年

広島県教育委員会『人権教育関連資料集』平成 15 年

広島県教育委員会『文部科学省委嘱事業「人権に関する効果的な指導者研修のすすめ方に関する研究」報告書』平成 13 年

広島県教育委員会『文部科学省委嘱事業「人権に関する効果的な指導者研修のすすめ方に関する研究」報告書』平成 14 年